

## 平成 27 年度（H27.4.1～H28.3.31）事業報告

### I. 平成 27 年度 事業報告

当財団は青少年の健全育成を目的として昭和 49 年に設立され、現在は子ども文庫助成事業と電子図書普及事業を行っている。平成 27 年度は、子ども文庫助成では 41 回目の助成を行い、公益財団法人社団法人シャンティ国際ボランティア会の活動にも参加した。一方、電子図書普及事業ではマルチメディアDAISY図書の製作配布も 6 年目を迎え 1,000 ケ所以上に配布することとなった。

### 子ども文庫助成事業

1975 年より継続して実施している国内外で子どもの読書活動を草の根活動として携わるボランティアの皆様に加えて、平成 27 年度も、東南アジアの子どもたちに向けた「絵本を届ける運動」に参加している。

#### 1.平成 27 年度 助成件数・金額

本年度の助成件数・金額は、以下の通り。

	予 算		（ ）内は海外件数、内数	（金額単位：百万円）	
	助成件数	助成金額		応募件数	実 績
				助成件数	助成金額
① 子どもの本購入費助成	併せて		93 (9)	44 (3)	13.2
② 病院施設子ども読書支援購入費助成	60	18.0	15 (—)	5 (0)	1.5
③ 子どもの本 100 冊助成	25	4.0	53(12)	19 (7)	2.5
④ 子ども文庫功労賞	2	0.7	6 (—)	3 (0)	1.1
⑤ 東南アジアの子ども達へ絵本を贈る		2.5			2.2
小 計	87	25.2	167 (21)	71(10)	20.5
<b>【指定寄付金に基づく助成】</b>					
⑥ 伊藤忠商事及び社員・株主 100 冊 (丹羽基金による海外助成を含む)		2.3		被災地 日本人学校	1.7 0.6
合 計	87	27.5	167 (21)	71(10)	22.8

助成金額 合計 22.8 百万円

#### ①子どもの本購入費助成（現金助成）

##### ・対象

子ども文庫（家庭文庫、地域文庫等）又はその連合体（こども文庫連絡会等）において、子ども達の読書啓発を行っている民間団体、個人。

##### ・内容

図書等の購入、充実を目的とした購入費を 1 件当たり 30 万円助成。

#### ②病院・施設こども読書支援 購入費助成（現金助成）

- 対象  
小児病棟等で長期闘病中の子ども達や、心身障害児施設、児童養護施設等で生活している子ども達に対して読書啓発を行っている民間団体、個人。
- 内容  
子ども達が様々な障害を乗り越えて読書を楽しむための支援を目的とした図書、機材の購入費、図書作成費等を 1 件当たり 30 万円助成。

### ③子どもの本 100 冊助成（図書現物助成）

- 対象  
上記①、②共通
- 内容  
当財団が選書した 100 冊の児童書セット（小学校低・中・高学年別の 3 種類）のうち 1 セットを贈呈。

### ④子ども文庫功労賞

- 対象  
永年に亘り（概ね 20 年以上）子ども文庫あるいは児童図書館等を運営されてこられ、子ども文庫の普及に貢献されてこられた個人。
- 内容  
1 名につき 35 万円（5 万円相当の商品、副賞 30 万円）

### ⑤東南アジアの子どもたちへ絵本を贈る（絵本の現物助成）

- 対象  
カンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマーの子ども達。
- 内容  
公益社団法人シャンティ国際ボランティア会が主宰するカンボジア、ラオス、アフガニスタン、ミャンマー等絵本の不足している地域に、日本語の絵本を贈る運動。東日本大震災の被災地の子どもたちや、伊藤忠商事の社員とともに活動に参加してもらう。

### ⑥伊藤忠商事及び社員・株主による被災地及び海外への 100 冊(図書現物助成)

- 対象  
東日本大震災の被災地で子ども達のための読書啓発活動をされている学校又はボランティア団体、個人。  
海外の日本人学校・補習校において子ども達の読書啓発・指導を計画又は実践されて学校運営者又は運営ボランティア。
- 内容  
伊藤忠商事の指定寄付金（社員・株主から集めた寄付金に伊藤忠商事が同額を上積みした金額）を原資として当財団が選書した小中学生向け 100 冊の児童書セットを贈呈。

## 2. 展示会参加

昨年度から、従来電子図書普及事業のみが参加していた各地の展示会のうち協同で出展可能なものに文庫助成も参加し、助成の紹介と説明を行い、応募希望者には、4 月以降の新規応募開始の際に書類を送ることにしている。

	場所
4月	・文部科学省 こども読書フォーラム
8月	・日本子どもの本研究会（東京）

### 3.助成事業部 経費内訳

	予算	実績
・助成金	27.5	22.8
・贈呈式費用	5.0	3.8
・その他 経費	12.4	11.3
・人件費	17.3	17.9
計	62.2 百万円	55.8 百万円

## 電子図書普及事業

障害のために、通常の書籍では読む事が困難な子どもたちの「読書環境の向上」を目指している。具体的には、わいわい文庫と名づけた電子図書を製作し、全国の特別支援学校等へ寄贈を行っている。

あわせて、障害のある子どもたちの読書支援ができる人材の育成事業（読書バリアフリー研究会）を展開している。

### 1.電子図書の製作、配布

前年度製作した電子図書 61 作品を全国の特別支援学校など 1,022 か所の団体に寄贈した。前年比+113 と大きく伸びたのは、徐々に普及の効果が表れ、「わいわい文庫」への認知度が高まったのが理由と考えている。

また、利用した小学校の特別支援教育教諭間での口コミからの寄贈希望を多く頂いた。平成 27 年度は 66 作品を製作。前年度から、郷土の昔話シリーズの製作を開始し、本年度は、9 都道府県立図書館から協力頂き、作品収蔵を大幅に増やした。

配賦年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
寄贈作品数	38	58	55	61
寄贈先	572	670	909	1022

### 2.利用促進活動

- ・12 団体及び 3 図書館の利用成果をまとめた小冊子「わいわい文庫活用術③」と書影ポスターを電子図書に同封。平成 28 年 5 月には「わいわい文庫活用術④」配布予定である。
- ・オリジナル作品の提供（25 作品）  
著作権者に使用許可を頂いて製作。著作権法に抵触せず、多くの方に電子図書を見てもらい、障害のある方の読書環境を考えて頂くことをねらいとしている。

### 3.広報・啓蒙活動

読書バリアフリー研究会の開催（後援：文部科学省、公益社団法人全国学校図書館協議会、開催地教育委員会など）

障害のある子どもたちの特性を知り、読書支援の方法を学ぶ研究会。大学教授など専門家を講師にお招きしている。27年度も学校教諭、図書館員など専門職の受講が多くあった。

	会場	参加人員
5月	・東京都立多摩図書館	66
	・和歌山県立図書館	38
	・大阪市中央図書館	71
6月	・札幌市中央図書館	49
10月	・くまもと森都心プラザ図書館	38
	・佐賀県立図書館	46
11月	・宜野湾市民図書館	33
	合計	341

#### 【講演】

様々な団体から財団職員が招かれ講演などを行う

	訪問先
4月	・学校図書館問題研究会（東京支部）
5月	・バリアフリー絵本展トークセッション（横浜・アースプラザ）
6月	・全国学校図書館協議会「学校図書館のユニバーサルデザインを考える」研修会
7月	・専修大学文学部 ゲスト講師
8月	・埼玉県岩槻特別支援学校
10月	・近畿地区盲学校職員研修会（福井市）
11月	・図書館総合展 学校図書館セミナー
2月	・福岡県公立図書館等協議会北筑後地区研修会
3月	・東久留米市立中央図書館「マルチメディアディジーってなんだろう」研修会

#### 【展示会】

電子図書の実演を中心に行う

	展示会名
4月	・子どもの読書活動推進フォーラム（文部科学省）
6月	・全国音訳ボランティアネットワーク総会（東京）
7月	・マジカルトイボックス（東京）
8月	・日本子どもの本研究会全国大会出展（東京）
	・県立明日香養護学校 特別支援教育研修会（奈良）
10月	・日本LD学会（福岡）

12月	・ATACカンファレンス
1月	・羽二重ねっと設立総会（福井） ・弱視教育研究会全国大会（鹿児島）
2月	・メディアテーク図書館フェスティバル（仙台）

【事業説明】

事業協力や周知のお願いのため訪問（主な個所）

その他、図書館 42 館、特別支援学校等学校 20 校、出版社 17 社

	展示会名
4月	・東京大学先端科学技術研究センター ・日本書籍出版協会 ・日本ライトハウス情報センター ・日本盲人会連合 ・国立特別支援教育総合研究所
5月	・公益社団法人学校図書館協議会
7月	・日本点字図書館 ・文化庁
10月	・公益財団法人東京動物園協会
11月	・帝京大学教育学部
3月	・徳島県山城町（妖怪村） ・宇宙航空研究開発機構（JAXA）

4.電子図書普及事業部 経費内訳

	予算	実績
・電子図書 事業費	9.7	10.1
・その他 経費	7.4	8.9
・人件費	19.4	19.6
計	36.5 百万円	38.6 百万円

## Ⅱ. 平成 27 年度 (H27.4.1~H28.3.31) 決算報告

### (損益計算書) 資料一1 「損益計算書推移」参照

	計画	実績
【経常収益】 ほぼ計画通り	(117.7	→ 117.1 百万円)
(主要因)		
・ 仕組債再投資による金利減	(88.2→87.8 百万円)	△0.4 百万円
【経常費用】 当初計画より 4.5 百万円減少	(116.8	→ 111.3 百万円)
(こども文庫助成事業)		
・ 文庫助成件数減 (P.1 明細表参照)	( 27.5→22.8 百万円 )	△4.7 百万円
・ 贈呈式費用	( 5.0→ 3.8 百万円)	△1.2 百万円
・ 業務委託費減 (電子図書普及事業)	( 1.5→ 1.1 百万円)	△0.4
・ 「わいわい文庫」CD 増刷	( 2.0→ 3.7 百万円)	1.7 百万円
【調整前当期経常増減】	( 0.9→	5.8 百万円)
・ 上記理由による。		
【当期経常増減】	( 0.9	→ 91.3 百万円)
・ 上記に加え、その他有価証券の国債 8 銘柄の評価益 86 百万円による。		

### (貸借対照表) 資料一2 決算報告書の内「貸借対照表」参照

- ・ 総資産は昨年末に比較し 101 百万円増加となった。主たる要因は上記。
- ・ 基本財産/普通預金 1.5 億円の増加は、3 月下旬に期前償還による (4 月 8 日に再投資)。
- ・ 基本財産/定期預金 1 億円の減少は、前期分 2 億円再投資による減少と、今期末投資環境悪化により再投資できず、繰越した 1 億円の増加との差額。
- ・ 運用資産 47 億 86 百万円 利回り 1.83%

監査報告書は、決算報告書に続き、「資料一3」として添付。